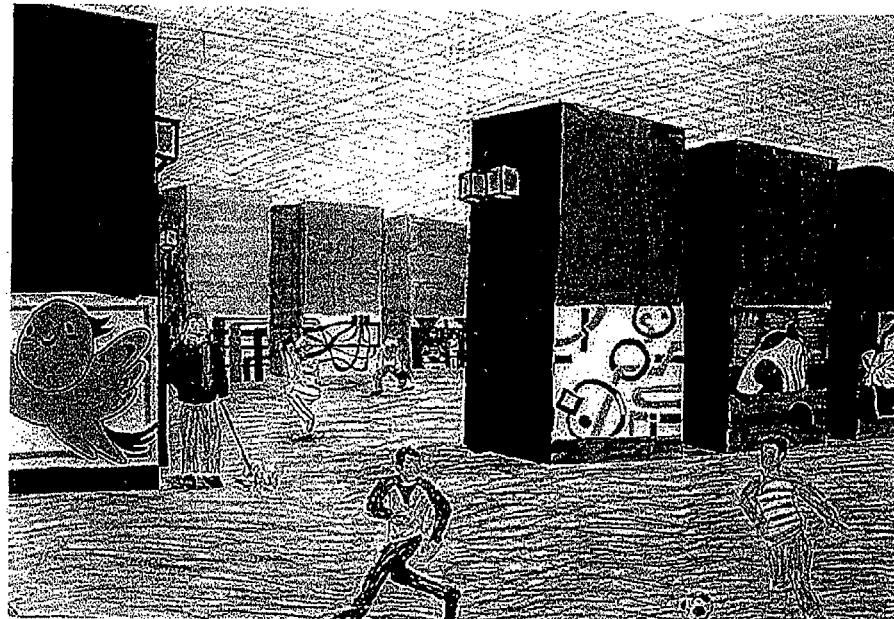


壳布小学校区まちづくり計画

美しい住環境と豊かな交流を育てていくまち



平成 18 年 3 月

壳布小学校区まちづくり協議会

壳布小学校区の地勢とあゆみ

壳布小学校区は宝塚市の中心部から東方約 2km に位置します。播磨に向かう巡礼道沿いに壳布神社や隣接する中山寺をはじめとする神社仏閣が多く立地し、古くから拓かれた地区です。壳布神社は、大昔から大国主命の娘である高比壳たかひめ（下照比壳したてるひめ）とその夫の天 雅彦神あまのわかひこを「衣・食・財」の守護神として祭り、今も多くの人たちに信仰されています。

江戸時代には、この地域は米谷村と呼ばれており、米作りが盛んでした。壳布が古くから米作りが盛んであったのは、その名の由来からも知ることができます。壳布の「壳」は「米」を意味し、「壳」を「め」と読むのは呉音の読み方です。また、「布」は織物のこと、この地域では桑畑と養蚕が盛んだったようです。壳布は米作り、布織物に関わる技術水準の高い地域でした。

明治 41 年 8 月に大阪と宝塚を結ぶ箕面有馬電気軌道（現阪急電車）の開通を機に、宝塚は理想的な郊外文化・居住の地へと変貌していきます。しかし、昭和初期まで壳布小学校地区の地域は駅南側には田園地帯、北側には大きな邸宅や別荘が散在するのどかなまちでした。その邸宅街の中に、明治の元勲で日本銀行の創始者として知られる松方正義侯爵のお屋敷もあり、後に料亭旅館「松楓閣」となり、“大阪財界の奥座敷”として駅北側の発展に影響しました。

高度経済成長期には、住環境に秀でた宝塚市において一際豊かな自然と歴史を有するこの地域は、良好な住宅地として開発が進みました。阪急電鉄による住宅開発が宅地化に拍車をかけ、多くの住民が流入し、駅前に誕生した商店街もにぎわいを見せます。

バブル崩壊とともに駅前商業地域は停滞しあり、地元商業者たちは商業活性化へ向けた自主活動組織を結成します。居住者も含めて「壳布神社駅前地区街づくり研究会」ができ、まちづくりが始動します。その後、阪神淡路大震災により当地域は大きく被災しますが、「研究会」を基盤に地元商業者・住民は市役所とともに壳布駅前の復興再開発を成し遂げました。

売布小学校区の人口統計からみる現状と課題

売布小学校区域は宝塚市の第3ブロックにあたり、区域には、大字米谷、切畠字長尾山（11・12番地）、清荒神2～5丁目、売布1～4丁目、売布ガ丘、売布山手町、売布きよしが丘、泉ガ丘、米谷1丁目（1番18～26号・3～12番・16～19番）米谷2丁目（1・2番23～41号・3～17番）中山寺3丁目、売布東の町、中山荘園が入ります。

平成17年5月時点での売布小学校区の地区人口は13,601人であり、世帯数は5,515世帯です。男女別人口の内訳をみると、男性が6,327人、女性が7,274人となっています。年齢区分別に見た市内平均と売布小学校区の人口の構成比は、次の通りです。

年齢区分	人口構成比	
	売布小学校区	宝塚市
少年人口（0～14歳）	14.1%	14.6%
生産年齢人口（15～64歳）	65.0%	67.4%
前期高齢者人口（65～74歳）	11.6%	10.5%
後期高齢者人口（75歳以上）	9.3%	7.5%

上記の表をみてわかるように、売布小学校区は宝塚市全体と比べ前期・後期高齢者人口が少し高くなっています（特に、後期高齢者人口の割合が高い）。当校区は坂道が多い地形であり、歩道などのバリア箇所の改善はじめ高齢者・障害児（者）の福祉を充実させていくことが望まれます。また、若年層を引きつける魅力ある生活環境の創造や子育て支援なども求められています。



壳布小学校区の将来像

美しい住環境と豊かな交流を育していくまち

- 豊かな自然に囲まれ、地域にまつわる文化を大切にした趣あるまち
- 笑顔と笑顔でふれあえるコミュニケーションのあるまち
- 子どもから高齢者までが支え合い安心安全に暮らせるまち

壳布小学校区まちづくり計画 全体像

まちづくりの基本方針：美しい住環境と豊かな交流を育てるまち

ふれあい・おもいやりに満ち

笑顔で暮らせるまち

- ① 多様な福祉ニーズに応えるまち
- ② 人と人をつなぐまち
- ③ 気軽に集える場のあるまち

悩んでいる人、迷っている人、不安な人、孤立している人など、地域の多様な福祉ニーズに対応した真のバリアフリーのまちづくりを目指します。

子育て・子育ちを

パートナーシップで支えあっていくまち

- ① 子どもが遊び育つまち
- ② 乳幼児の子育てを支援するまち
- ③ 地域と学校教育との連携

地域と学校と行政のパートナーシップにより、子どもたちにとって安全で居心地のよい、そして未来に希望を持てるまちにします。

みんなでつくりあげる美しい環境のまち

- ① 駅前に親しみをもてる遊歩空間があるまち
- ② 環境に配慮したまち
- ③ ペットと共生するまち

まち中で起きる環境問題の解決と予防に向けて、市民と行政が協働で取り組んでいきます。こうした取り組みを続け、美しく調和のとれたまちの創出を目指します。

住民のつながりが支える、安心・安全なまち

- ① みんなで主体的に防災に取り組むまち
- ② 隣近所の目が行き届き、安心して暮らせるまち

緊急時に地域の人たち同士が助け合い、犯罪や災害から自分たちを守っていくしくみを考えます。また、緊急時に備えた活動も行なっています。

一人一人が主体となってつくりあげるまち

- ① みんなが主体的にまちづくりに参加するまち
- ② 人のつながりがあり、あたたかいまち

人々が気軽に集えるコミュニティの拠点を中心に、人々のつながりが生まれるあたたかいまちを目指します。拠点で得た“知恵”や“元気”により多様な人々がネットワークされ、主体的にまちづくりに関わっていきます。

自然が豊かで、文化の香りのするまち

- ① みんなでつくりあげるみどりに溢れたまち
- ② 豊かな自然を身近に感じるまち
- ③ 文化を育むまち

山手に広がる自然環境やまち中のみどり、地域にまつわる文化に親しむしくみを考えます。こうしたしくみを通じ、まちの歴史・環境等の資源を維持・整備する取り組みを行ないます。

売布小学校区まちづくり計画 細目

福祉

現状と課題

多様化する福祉ニーズや地域の交通手段について

- ・地域住民の要望や問題が多様化し、福祉ニーズが見えにくい

地域の福祉ニーズが多様化する中で、個々の人のニーズにあった情報や相談などを得られる場が求められる。

- ・高齢者・障害者等の移動を支える交通手段が不足している

阪急バスなどの公共交通は坂の多い一部の地域には巡回しておらず、今後、既存のバス路線の拡充が必要である。

福祉目的のコミュニティバスの運行が早期に望まれる（高齢者のために地域と病院とを結ぶ等、路線については住民とともに検討する）。

高齢者・障害者（児）の地域とのかかわりについて

- ・地域から高齢者が孤立しがちである

高齢者の単身世帯や夫婦だけの世帯には、自宅に閉じこもりがちな人も多い。

地域の行事に参加しにくい人々に対しては、地域からの呼びかけや見守りが必要である。

- ・障害者同士のネットワークだけでなく、地域の人とのつながりが必要である

障害者とその家族は地域とのつながりが少なく、孤立しがちである。

- ・地域との接点をつくれない人は情報が入りにくく、地域との関係が希薄化している

要介護者・介護者の抱える問題について

- ・要介護者（高齢者・障害者）も介護する側も固定的な関係の中で、心身にストレスを抱えている

高齢者世帯の増加で多くなっている老々介護の世帯や、障害者とその家族には、固定的な介護の関係により心身のストレスを大きくすることがあります、要介護者・介護者ともに悩みを話し合ったり交流する場が必要である。

目標: ふれあい・おもいやりに満ち笑顔で暮らせるまち

私たちが一人ひとりでできること・力を合わせればできること	市民と市役所が一緒になって(協働して)考え進めていくこと	市役所が責任を持って行うこと
<p>①多様な福祉ニーズに応えるまち</p> <p>福祉拠点の運営を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰もがいつでも立ち寄れ、気軽に集える売布小学校区の福祉拠点施設の運営を行う →365日オープンの運営を行う（短期） 地域の人がふれあい、ほっとできる場とともに、多様な福祉の相談に対応する（短期） 多様な福祉の相談に応じる（短期） 	<p>日常生活圏に売布小学校区の福祉拠点をつくる（短期）</p> <ul style="list-style-type: none"> 売布小学校区の中心的な場所（駅周辺）に拠点を設ける 車椅子やベビーカーでもアプローチしやすい平坦な場所に拠点を設ける <p>つどいの場づくりを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に介護する側の当事者・経験者を初め、福祉の情報交換や交流できるネットワークづくりを行う（中期） 	<p>福祉拠点整備への補助を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉拠点のハード面での整備について、資金面での補助を行う（短期） 拠点運営についても、ソフト面での補助を行う（短期） <p>路線バスの拡充やコミュニティバスの運行など、交通手段の整備を行う（中期）</p>

<p>②人と人をつなぐまち</p> <p>孤立している高齢者や障害者（児）を地域の行事やサークルに誘う（短期）</p> <p>地域のリーダーとなる人材を発掘する</p> <ul style="list-style-type: none"> 口コミ、イベント、広報誌などで呼びかけ、地域のなかから何かできる人を発掘する（遊びの達人、趣味・特技のある人、専門技術をもつ人など）（短期） <p>障害者同士のネットワークを更に広げるために、地域や福祉に携わる人を集めた交流会を開く（短期）</p>	<p>地域の人の交流を促進する</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の人が仲良くなれるような交流事業、共通の目的に向かって地域の人が一体となるような事業を行う（中期） 地域の人がコミュニティを形成するリーダーとなりうる人材育成をする →研修や交流などによりリーダーのケアも行う（中期） 	<p>地域で必要となっている事業を行いやすくするため、細かな規制のない地域一括補助金のようなしきみを市役所が設ける（中期）</p>
---	---	---

私たちが一人ひとりでできること・力を合わせればできること	市民と市役所が一緒になって(協働して)考え進めていくこと	市役所が責任を持って行うこと
<p>③気軽に集える場のあるまち</p> <div data-bbox="309 382 848 525" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地域の人が気軽に集える場をつくり運営する ・民家の空き部屋等を利用して、誰もが徒歩で行ける場所に、気軽に集えるサロンを設け、地域の人で運営していく（短期）</p> </div> <div data-bbox="309 636 848 843" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>タウンミーティングやネットワーク会議を行い、校区全体に発信する ・福祉拠点やサロンなど、地域の問題を気軽に話し合える場をつくる（短期） ・タウンミーティングの内容を校区全体に情報発信する（短期）</p> </div>	<p>民家の空き部屋・空き家など、民間施設について、サロンができる場所の情報提供や斡旋を市役所と市民の協働で行う（短期）</p>	<p>余裕教室などに関する情報の提供 ・学校の余裕教室を利用するなど、公的施設の情報提供や斡旋を行う（短期）</p>

都市環境

現状と課題

駅前の放置自転車について

- 既存の駐輪施設が効果的に利用れされていない

壳布神社駅前（コーポ&ロータリー）に地下駐輪場があるが、認知度が低く利用者が少ない。

壳布神社駅前ピピアめふの地下駐輪場とコーポをつなぐ地下連絡通路があるが、認知度が低く利用者が少ない。

壳布神社駅前（コーポ&ロータリー）の駐輪場は、奥の方が薄暗く防犯カメラもないので危険になっている。

そのため人の出入りが少なくなり、利用しにくくなるという悪循環に陥っている。

- 放置自転車の問題で目立つのは、昼間の買い物客や駅利用者である

通勤者より、昼間に駅や駅前を利用する買い物や遊びにくる人が放置する自転車やバイクの方が問題である。

- 放置自転車の取り締まりをするだけでは放置自転車をなくすのは難しい

現在放置自転車の取り締まりを月2回行っている。その時は放置自転車がなくなるが、その時以外は全く減らない。

駅周辺の放置禁止区域を取り締まっても、禁止区域の周辺に自転車を放置する人がいる。

駅前の放置自転車



AM 9:00



PM 4:00

市の地下駐輪場



ゴミについて

- 分別回収が行き届いていない地区がある

ゴミの回収ボックスは自治会や業者が用意しているので、自治会によっては回収ボックスがないところがあり、分別回収が行き届いていない。

- ゴミの回収場所を設置できていない地域がある

ゴミの回収ボックスを置くスペースや、ゴミの回収場所を設けることができないところがある。

- 地区外から来て、まちにゴミを捨てて行く人がいる



ペットについて

- ペットを飼う人のマナーの向上が求められる

ペットの糞を取り締まるポスターを張っているが効き目がなく、まち中に犬の糞が多い。

飼い主のマナーの向上を促すポスターだけでは効き目がない。

- 子どもが動物や虫と接する機会が減っている。

目標:みんなでつくりあげる美しい環境のまち

私たちが一人ひとりでできること・力を合わせればできること	市民と市役所が一緒になって(協働して)考え進めていくこと	市役所が責任を持って行うこと
<p>① 駅前に親しみのあるまちの 歩空間</p> <p>放置自転車を取り締まる</p> <ul style="list-style-type: none"> 市や市民が認める「駐輪見張り隊」を市民が結成し、放置自転車を取り締まる（短期） 駅前に人々が気軽に集まる集会所をつくり、そこに集まる人たちで放置自転車を取り締まる（長期） 	<p>既存の駐輪施設を促すしくみづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> コーポや駅前の専門店で買い物をした人に売布神社駅前ロータリーの地下駐輪場の無料券を発行し、利用を促進する（中期） コーポや売布神社駅前ロータリーの地下駐輪場の暗くなっているところに、電灯・防犯カメラを設置する（短期） 売布神社駅前ロータリーとコーポをつなぐ地下連絡通路の存在を示す看板を、もっとわかりやすいところに設置する（短期） 	<p>工夫をして、まち中に駐輪スペースをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ピピアめふ南側の街路樹部分を駐輪スペースとして活用し、コーポや駅前の専門店で買い物をする人が利用できるようにする（斜め45°に自転車の前輪を入れるコンクリートブロックの溝の輪留めを設ける） 電動車椅子優先（中期） <p>公的な取り締まりを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 現行のシルバー人材センター委託の取り締まりの時間を延長する（短期） 放置バイクについては、道路交通法規にもとづき警察が取り締まる（短期）

<p>② 環境に配慮したまち</p> <p>地域の人でまちの見回り隊をつくり、ゴミのポイ捨てを防ぐ（短期） 将来的には、不法投棄監視制度に基づき市民の力で不法投棄な取り締まる（中期）</p> <p>ゴミの分別回収の意識を高め、ゴミの回収システムを市民が運営する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴミ当番を順番に回することで、ゴミの分別回収の意識を高める（短期） ゴミの分別回収に努め、アルミ缶・新聞紙などのリサイクルにより得たお金を、自治会費やゴミ施設の整備費に使用する（中期） 	<p>市民と警察が協力して不法投棄に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民だけでは行えない部分を警察の人の協力を得て、両者が連携した形で不法投棄に取り組む（中期） <p>市民が運営するゴミ回収システム</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会等でゴミの回収ボックスを設置できない地域へは、行政が助成しリサイクルなどで得たお金で返していくシステムにする（中期） <p>ゴミの回収場所を確保する</p> <ul style="list-style-type: none"> スペースの問題でゴミの回収場所が設置できないところに対して、行政が場所を確保するように努める（中期） 	<p>不法投棄監視制度をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政が市民に不法投棄を見張る権限を委譲する制度をつくる（中期） <p>警察にまちを見回ってもらい、不法投棄、ゴミのポイ捨てを取り締まる（中期）</p>
---	---	---

私たちが一人ひとりでできること・力を合わせればできること	市民と市役所が一緒になって(協働して)考え進めていくこと	市役所が責任を持って行うこと
<p>③ペットと共に生するまち</p> <p>飼い主のマナーの向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットクラブを組織し、犬や猫の飼い方やマナーを学ぶ教室を開催する（中期） ・地域住民がペットのマナー向上の腕章を付け、ペットの飼い主に注意を促す（短期） <p>ペットと触れ合い、心を癒す機会をつくる（アニマルセラピー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物にあまりふれることがない子どもや、お年寄りに、ペットに触れ合うことができる機会をつくる（中期） 	<p>ペットに関する迷惑条例をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼い主に自覚を促すような施策のある迷惑防止条例をつくる ・例えば、犬の散歩時の糞の始末や放し飼い禁止の義務化（中期） 	

コミュニティ

現状と課題

まちづくりへの参加について

- ・自治会を運営することが難しくなっている

地域にマンションが多いところでは、自治会の運営が難しくなっている。

新旧の住民がうまく関わり、主体的にまちづくりをすすめることが望まれる。

自治会の意義がわかりにくくなっている。

- ・まちづくりにたいする意識の高揚

会合などの出席率が低くなっている。

会合などへ参加する人が固定されてきている。

人のつながりについて

- ・地区に人々が気軽に集まれるところがなく、人々のコミュニティをつくりづらい

地区によっては集会所がないところもある。

高齢者（特に男性）が気軽に集まれるところが望まれる。

壳布小学校区全体を考えていく場として、地域全体で集まれる機会や場所を設ける。

- ・近所付き合いを密にしていく

近隣と話しをすることが少なくなっている。

親同士の交流が行われていないので、子どもだけでなく親の交流が望まれる。

近所の高齢者（特に独居老人）や障害者（児）の世帯が孤立しないような取り組みが必要である。

目標:一人ひとりが主体となってつくりあげるまち

私たちが一人ひとりでできること・力を合わせればできること	市民と市役所が一緒になって(協働して)考え進めていくこと	市役所が責任を持って行うこと
<p>まちづくりに参加するまち</p> <p>まちづくり①みんなが主体的に参加するまち</p> <p>会合などに多く人に参加してもらうために、自分の周囲から誘い参加していく（短期）</p> <p>誰でも気軽に参加できる場を設け、その場からまちづくりを始めていく（中期）</p>	<p>気軽に集まれる集会場を設け、まちの問題に取り組む →集会所については、民家の部屋等、柔軟に設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> 集会所に集まつた人が、地域で起こる様々な問題に取り組んでいく取り組みをつくる各地域であれば、マナー向上への取り組み（中期） 駅前（売布小学校区全体）であれば、駐輪問題の見張り隊の結成（長期） <p>自治会に入ることを奨励する</p> <ul style="list-style-type: none"> 美しい住環境と豊かな交流を育てるまちづくりをすすめる（長期） 	
<p>②人のたつたなかがいりまがちあり、</p> <p>地域で孤立した人が出ないように、隣近所で気軽に声を掛け合っていく（短期）</p>	<p>人々が集まる機会をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> 人々が誰でも気軽に参加できるような催しを行い、人ととのつながりをつくっていく（中期） 気軽に集まれる集会所を利用し、地域住民の交流を目的にした集まりを開催する（長期） 	<p>人々が気軽に集まれるコミュニティの拠点をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地域ごと、高齢者や障害者（児）も利用しやすいところに集会所を設ける（長期） 売布小学校区の人々が気軽に集まれる場所を、売布神社駅前に設け、売布小学校区全体のコミュニティの拠点とする（長期）

子育て環境

現状と課題

子どもの遊び場について

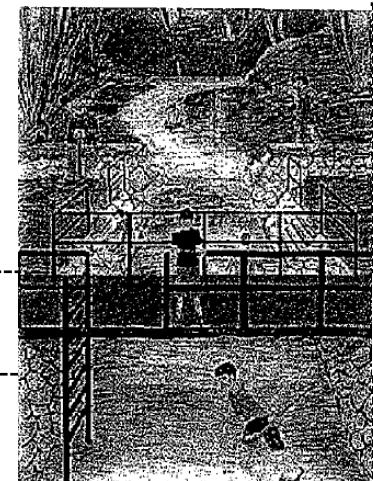
- ・子どもが伸び伸び遊べる遊び場が求められる
ボール遊びや冒険遊びなど伸び伸び遊べる公園や場所が少ない。
壳布小学校では、放課後一度帰宅しなければ学校の校庭で遊べないので、家が遠い子どもは一度家に戻るのが大変である。
子どもたちが遊びを通じて世代を超えた交流をする場所が少ない。

子育て支援について

- ・子育てしやすい環境を望む声が高まっている
空き地にどんどん住宅が建ち子どもが増えているため、保育所・育成会に入れず待機している児童が多い（子育てしやすい環境が整っていない）。
宝塚市全地域を対象にマタニティ教室が行われているが（市民病院など）、行ってもその場限りになっている。
世代を越えた交流がないので、子育てについて相談する相手がいない。
近所との交流がないために孤独化し、そのため育児ノイローゼや虐待が起きているのではないか。
保育園民営化については、公立の保育園が有している教育の質を維持することができるよう、保護者と話し合う場を設け、業者を選定して欲しい。
市内には24時間の救急医療体制がないため、夜間や休日に子どもが急病になったときは遠くへ行かなければいけない。

教育について

- ・子どものことを考えた教育環境にすることが望まれる
合格発表の当日にならないと、自分のいく高校がわからない校区の調整区域がある。
高校進学は学校の都合優先で制度化されており、子どもが行きたい高校を選べない。
ゆとり教育が学力低下の一因になっていると言われているが、本当のことはよくわからない
(子どもと保護者、地域との情報交流が必要)。



子どもワークショップより

- 公園の数は少なく、高架下公園などは暗く、安心して遊べない。
溜め池や川が安全でない。
夕方は道が暗く不安である。

川とふれあえる整備イメージ(P14右上)

目標:子育て・子育ちをパートナーシップで支えあっていくまち

私たちが一人ひとりでできること・力を合わせればできること	市民と市役所が一緒になって(協働して)考え進めていくこと	市役所が責任を持って行うこと	
<p>① 子育て 子ども まち 遊び</p>	<p>子どもたちの遊びをサポートするしくみ (世代間交流を行う) ・遊びの第一歩として、放課後の校庭を利用する（短期） ・PTCA とシニアクラブが連携して、子どもに遊びを伝承する（中期）</p>	<p>市民と市役所が一緒になって(協働して)考え進めていくこと</p>	<p>子どもの多様な遊びに対応した公園づくり ・現在も球技等が行われている米谷の高架下にある公園を、「元気いっぱい球技公園」に整備していく（中期） ・ホタルのいる足洗川の上流を「自然と触れ合う河川公園」に整備する（中期）</p> <p>安全な公園づくり ・清荒神5丁目第2公園の柵を高くする（中期）</p>
<p>② 乳幼児 支援する まちの子育てを</p>	<p>地域でともに子どもを育てる ・地域全体で子育てのアドバイスや一時預かりを行うしくみをつくる（短期） ・地域でのマタニティ教室を開催し、母親の交流サークル化を支援する（短期） ・子育てサークルを紹介する（短期）</p>	<p>子どもを安心して生み育てられる環境づくり ・保育を必要とする乳幼児が全員保育園等に入るとともに、質の高い保育を提供できるしくみをつくる（中期） ・働きに出ている親のためにも、子どもが病気のときに預かってくれる場や、延長保育をする場を確保する（中期）</p>	<p>子育てしやすい環境を支援する ・小児緊急医療体制を整える（中期）</p>
<p>② 地域 と学校 との連携 教育</p>	<p>地域の大人が中高生に自らの職業体験、地域活動体験をキャリア・ガイダンスする場を設ける（短期）</p>	<p>地域から小中学校の教育をサポートする ・教師と保護者、地域の人が、教育のあり方とともに考えつくりあげていく（中期） ・小中学校に教育ボランティアを導入する（中期）</p>	<p>兵庫県が責任を持って行うこと</p> <p>高校選択の“不自由”を解消する ・市民の望む高校進学制度をつくるため、市民参画で協議する場をつくる（中期） →特に校区の調整区域に住む中学生が合格発表まで進学先がわからないという“不安”をなくす（短期）</p>

防犯・防災

現状と課題

防災について

- ・防災に対する意識を高めることが求められる

防災に対して主体的な訓練が不足しているため、もっと主体的に取り組むことが求められる。

防災用具の備えはしているが、その使用方法を知らない人が多い。

横の連携（コミュニティの中・外）をとりながら防災活動に取り組むことが求められる。

防犯について

- ・防犯には、警察の協力が不可欠である

青色灯をつけた市の人々が、地域を防犯のために見回りをしている。

壳布小学校区は“小浜”“荒神”の交番が見回っているが、警察官立ち寄り所さえ近くにないところもあり、交番の設置が求められる。

交番設置が当面困難な場合は、警察官立ち寄り所の設置、パトロールの強化が求められる。

- ・隣近所のつながりが希薄なため、子どもを外に出しづらい

子どもを狙った事件が相次ぐ中、子どもを守ることが重要な課題になっている。

立ち話をしている姿が少なく近所同士のつながりも薄くなつたため、いざというときに子どもを助けてくれるか心配である。

住宅街の道は私道が多く、市による街路灯の設置がなされない。市道への移管を勧めるとともに、私道であっても市の助成により設置を可能にして、子どもや女性の夜間の帰宅の安全を確保する。

- ・不審者への対応に不安がある

空き巣や不審者が出現するので、子どものことが心配である。

不審者情報は来るが、その後どうなつたかわからないので、知らせてほしい。

隣近所同士が親しくなく無関心なので、家を留守にするのが不安である。

目標:住民のつながりが支える安心・安全なまち

私たちが一人ひとりでできること・力を合わせればできること	市民と市役所が一緒になって(協働して)考え進めていくこと	市役所が責任を持って行うこと
<p>防① 災みに 取りで 組主 まつに</p> <p>助け合う心の醸成をはかる ・災害時に独居高齢者や障害者を持つ人を隣近所の人が助けられるように、自治会の防災組織を整備して連絡体制を周知させる（短期）</p>	<p>自治会と市が連携して防災対策を考える ・防災について情報交換を兼ねた交流会を行うところからスタートする（自治会と市の連絡を密にする）（短期）</p> <p>緊急時に混乱しないように備えをする ・地域に防災リーダーをおき、防災時に地域を率いる役目をする（中期） ・独居老人や障害を持った人などがどこに住んでいるか、災害時、どこに逃げればいいのか、などの情報を盛り込んだ安心・安全マップを作成する（中期）</p>	<p>緊急時を想定した取り組み（用意） ・防災用具の使用方法についての講習会を行う（短期） ・緊急時の対応についての情報をわかりやすく発信する（短期） ・消火栓の設置など、緊急時に必要になるものを用意する（中期） ・消防署の訓練を、実践に即した訓練にする（中期）</p>
<p>② 安隣 心近 し所 ての 暮ら せら せる まち き、</p> <p>自治会の防災・防火組織の充実をはかる ・隣近所で声かけ運動をすることで、高齢者をねらった訪問販売や子どもに対する防犯対策を行う（短期） ・散歩をしている人や犬の散歩をしている人に、安全パトロールの腕章を着用してもらい、パトロールを兼ねてもらう（中期）</p> <p></p> <p>警察官立ち寄り所設置場所（案）</p>	<p>地域と小学校が協力して子どもを守る ・子どもたちに危険箇所や事故発生時の行動を教える（短期） ・地域住民（シルバー、OBの方）が安全パトロール隊を編成し、地域や学校を守る（中期）</p> <p>地域と警察が協力した安全確保 ・警察官立ち寄り所を地域のパトロール隊と警察官の情報交換の場としても利用する（長期） ・警察に入る情報を地域にきちんと伝わるようにする（短期）</p>	<p>危険な箇所を改善する ・雑草・植木の刈り込みなど、人々の死角となるところを取り除く（中期） ・街路灯がなく、夜間通りが暗いところに、街路灯を設置する（中期） ・コミュニティプラザ前国道を安全にわたるための信号機付き横断歩道等の設置する（短期）</p> <p>地域の安全を守る警察の役割を考える ・福祉コミュニティプラザに警察官立ち寄り所（できれば交番）をつくる。そこを拠点に地域の安全安心を見回ってもらう 警察官立ち寄り所に警察官のOBの方に常駐してもらい、犯罪などの抑止力とする（長期）</p>

自然・文化

現状と課題

まちなかのみどりや公園について

- ・みどり溢れるまちにする

自治会と市の公園緑地課が役割を分担し、公園などにみどりを植えている地域がある一方、取り組みの遅れている地域もある。

住宅の庭にみどりを植えているところは多いが、自治会単位（地域）で協力してみどりを植え、美しい環境を形成するところまではいっていない。

公園を利用する人が少なくなっているので、誰でも自由に集え、くつろげるような公園が求められる。

米谷高架下の公園は落書きが多く薄気味悪いため、人が寄り付きにくくなっている。

公園に設置されている遊具の整備がいき届いていないので、危険である。

森や池などの自然について

- ・身近にある自然に、触れる機会が少ない

自然に触れながら巡礼街道を歩く取り組みが始まっており、これらを拡充する。

溜め池は財産区のものであるが、市民の協力により保全し、売布小学校区の住民と子どもたちの環境のシンボルとする。

鎮守の森である売布神社を、話し合いにより親水空間としての整備ができるかを検討する。

文化資源について

- ・文化を感じる機会を増やし、地域の財産とする

若い人たちが文化を冠したものに触れることがすくないので、気軽に文化に触れる機会をつくる。

西国三十三カ所巡りの一つの中山寺や売布神社の歴史文化を地域の人が学べるようにし、地域外から来た人も理解できるようにする（案内板、マップ、冊子等）。

高齢者・障害者（児）や中高生、大学生等が行っている文化活動の発表の機会を設け、PRすることにより、活動している人が意欲が持てるまちにする。

目標: 自然が豊かで、文化の香りのするまち

私たちが一人ひとりでできること・力を合わせればできること	市民と市役所が一緒になって(協働して)考え進めていくこと	市役所が責任を持って行うこと
<p>① みみ どりな いで 溢つ れたり あげる</p>	<p>市民が連携してみどり整うまちをつくる ・各家庭の庭や菜園の枠を越え、自治会(地域)単位でまちのみどりを整える取り組みをする(緑化協定、地区計画等)(短期)</p> <p>みんなで公園をつくり、守っていく ・公園を地域の人々がみんなで見守ることにより、落書きやゴミのポイ捨てを防ぐ(短期)</p> <p>市民が公園に愛着を持てるしくみづくり ・市民が自分たちの住む地域の公園などに、愛着をもてるように、市民の声を反映させた公園づくりを広めていく。また、維持管理についても、一定の役割を公園緑地課が市民(自治会など)に委譲する(行政はサポート役となる)(中期)</p>	<p>高齢者や障害者(児)、子どもが触れ合う余暇の場を設ける ・高齢者や障害者(児)、子どもが遊びや自然に触れ交流するなど、多目的に使用できる公園・広場を設ける(中期)</p>
<p>身(②) 近に 豊か に感 じる まち</p>	<p>みどりを身近に感じる活動をする ・「クリーンウォーク」で、売布神社の鎮守の森などを回り、売布地区にある自然を知り、触れる機会をつくる(短期)</p> <p>風土資源である溜め池を親水空間にする ・地域の風土資源である溜め池を、多くの人たちが親しめる親水空間にするため、財産区と協力して溜め池のあり方を考える機会をつくる(中期) ・溜め池を自然環境豊かな生物の生息地にするとともに、子どもたちが安全に生物とふれあうゾーンをつくる(長期)</p>	<p>水とみどりに親しめる遊歩道の整備 ・大堀川と足洗川に遊歩道を設け、中山奥の院へと続く親水、新緑の道をつくる(長期)</p>

私たちが一人ひとりでできること・力を合わせればできること	市民と市役所が一緒になって(協働して)考え進めていくこと	市役所が責任を持って行うこと
<p>③文化を育むまち</p> <div data-bbox="316 382 848 573"> <p>文化活動を発信する場をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・障害者(児)・中高生・大学生等が、音楽や演劇、ダンスなどを発表できる場を地域と福祉コミュニティプラザで広げていく 例)ひな祭りコンサート、夏祭り(短期) </div> <div data-bbox="316 684 848 843"> <p>文化を広めるしくみをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磨かれた“技”や“伝承遊び”を地域で子どもに伝えていくため、参加型ワークショップを行う(短期) </div>	<p>地域の歴史や文化に関する情報発信を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西国三十三ヵ所巡りの一つの中山寺や売布神社、中山莊園(八角古墳)などが掲載された、ハイキングコースマップ、歴史文化マップ、案内サインをつくり、巡礼街道の中継地点も設ける(短期) <div data-bbox="916 663 1448 822"> <p>アートが溢れ、親しみの持てるまちにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米谷高架の橋脚などに、中高生の美術部や造形大の学生が絵を描き、公園を明るくする(他の落書きを防ぐ効果)(中期) </div>	<p>巡礼街道の景観を整備する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡礼街道や、歴史が色濃く残る中山莊園(八角古墳)などの舗装を石畳にしたり、アースカラーにするなど、歴史を感じられる景観形成に取り組む(長期)